

● 7月10日(火) 晴 恵庭・千歳・マオイの丘 : ウトナイ湖

・昨夜早く寝たので、夜中の1時過ぎに目が覚めてからあまり寝つけず、ウトウトしながら横になり、朝日が差し込んできたので起床したら5時半だった。外は清々しい青空が広がり、風が涼しくて実に気持ちの良い朝を迎えた。牛乳とサンドイッチで軽く朝食を摂ったあと、天気が良いので漁川沿いを下流に向かって散歩した。

河岸にはサイクリングロードのような散歩道が整備されているのんびり歩けるが、人に会うことはほとんどない。両岸にはタンポポが黄色



河岸にはタンポポの黄色い絨毯が



の絨毯を敷き詰めたように一面に咲いていて、30分以上歩いたが全然飽きない。道道の橋まで来たのでUターンして同じ道に戻った。

道の駅「えにわ」の裏にはジャガイモ畑が広がり、ちょうどピンクの花が満開だった。恵庭には毎年来ているが、漁川沿いをゆっくりと散歩したのは初めてで、



駅の裏に広がるジャガイモ畑



裏から見た道の駅「えにわ」

約1時間、8000歩のすばらしい散歩ができた。

・9時を過ぎたので、毎年パターン、千歳空港へお土産の買い出しに向かった。今年は新作のお菓子があったので購入。その他、あげる人の顔を浮かべながら品物を選択し、慣れたもので早々と買い物を終わらせて空港を出た。外は快晴。これもいつものパターン、ウトナイ湖へと向かった。ちょうど12時になったのでレストラン「一頭」のホッキラーメン(980円)を食べた。苫小牧に来たらやはりホッキを食べないと……。でもホッキの量が少なかったな。



白鳥の休息地・ウトナイ湖

・食後の散歩はウトナイ湖の自然観察歩道を歩いた。ここも何回も来ているが観察歩道をゆっくり歩くのは初めてだ。この観察歩道はウトナイ湖の西岸に沿って作られた木道で、ほとんど人が通らない静かな路で、ウトナイ湖を満喫できる。

道端にはノコギリソウが花を咲かせ、英名では



ノコギリソウ



ホザキシモツケ

「草原の女王」と呼ばれるホザキシモツケが鮮やかなピンクの房花を咲かせていた。しかし予算が無いのか木道は腐ってボロボロ、補修もされていないので危ない所が結構あった。ちょうど真上が千歳空港着陸便の航空路になっているらしく、約 5 分間隔で頭上すれすれに飛行機が飛んでくる。ほとんどが双発のジェット旅客機だが、たまに 4 発のジャンボジェットが飛んできたり、双発のプロペラ機が飛んできたり、歩道のベンチに座ってのんびり観察したりした。

・炎天下の観察路を歩いて汗をかいたので、温泉で汗を流そうと「恵庭温泉ラフォレ」へ。ラフォレ温泉はこの北海道山紀行の最初に入った温泉で、シャンプー、石鹸は置いてないが、380 円と安くて良い温泉なので毎年必ず入っている。今年のもこの温泉で締めくくることがになった。汗を流してさっぱりしたところで今日の宿泊地、道の駅「マオイの丘」に来た。お目当ては夜食の「ぎゅうぎゅう丼」。レストランでまずメニューにあるのを確認し、まだ4時なので木陰で涼みながら旅の整理をしたり、日記を書いたりして夕食までの時間を過ごした。



最後の宿泊地・道の駅「マオイの丘」

・待ち切れずに5時過ぎにレストランに突入し「ぎゅうぎゅう丼」を注文。広いレストランに客は1組しかいない。私の食事中に3組入ってきただけで常にガランとして寂しいかぎりだ。生ビール2杯を空けて「ぎゅうぎゅう丼」で締めて満足の夕食だった。良い気分ですぐに就寝。周りにはキャンピングカー10台くらいを含め20台以上の車が止まっている。

・夜中に私の車の横に軽自動車が出てきて、エンジン（エアコン）をかけたまま寝ている。冷却ファンの音が耳について寝られない！ しかたなく音が聞こえない所へ車を移動させて熟睡に入った。明日は小樽から帰宅の途に着くと云う最後の夜に思わぬケチがついた。

● 7月11日（水） 晴 小樽からフェリーで新潟へ

・目覚まし時計に起こされて4時に起床。今日は小樽からフェリーで新潟へ向かう。北海道を離れて帰途に就く日だ。出港は10時半だが小樽に早く着いてやることがあるので、ベッドをたたむと朝食も摂らずに道の駅「マオイの丘」を後にした。



道の駅「マオイの丘」の朝

・あたりは一面の霧に包まれていて見通しが悪い。フォグランプをつけて法定速度で注意しながら国道274号線を札幌へ向けて走る。札幌へ着くころには霧も晴れて快晴の空となり、早朝で車が少ないので、快走する。7時前に小樽のフェリーターミナルに到着した。

・まず船室へ持ち込む食料、本、パソコン、諸資料などを準備した。新潟からの帰り道では、榛名に寄って朋子を拾って帰らなければならないので、助手席にセットしてあった棚や荷物を撤去して荷室にしまい、助手席を開放して二人乗りに復元した。

・8時まえに乗船ラインへの誘導が始まったので、いの一番に整列。朝早いこともあり、まだ整列した車はほとんどいない。誘導しているおじさんが「早いね!」と。「8時にオープンするレストランで

食事をしてくる」と云うと「朝市へ行ってうまいものを食べてきたらいい」との助言をくれた。「朝市」とは食堂の名前だと云う。教えられたとおり車を走らせて行ってみた。小樽の運河のはずれに「朝市」があった。道端に屋台のような店を構え、漁師飯屋みたいな小さな店で、席が10くらいしかない。ボリュームがあって品が良いもの、グルメばかりだが結構高い。私には朝からこんなには食えない。サーモン/いくら丼(1050円)を食ったが、さすが本場だけあって、これまた素晴らしく旨い! 知る人ぞ知る店だな、何回も小樽に来ていたが全然知らなかった。

・満腹、満足してターミナルに戻ったら、まだ先頭から4台目だった。今日の船は多分ガラガラだろうと思う。ただ以前にもあったが、自衛隊の部隊が乗ってくるようだ。

別の所に自衛隊の車が数10台並んでいる。

・9時30分に乗船開始。船は「ライラック」、S寝台・S1-79室に落ち着いた。いつもなら乗船したらまず風呂へ走るのだが、今回は乗客が少ないし、今行っても自衛隊の隊員が入っていて一杯だろうから、後でゆっくり入ろうと、船室で横になった。

・フェリーは定刻通り10時半に、係員の見送りを受けながら快晴の小樽港を出港し岸壁を離れた。デッキに立って遠く離れて行く小樽の街を眺めながら今年の北海道との別れを惜しんだ。こんなに天気の良い小樽港を出港するのは初めてかな? 天狗山がはっきり見えるし、しばらくすると高島岬の日和山灯台が見えてきた。



これから乗るフェリー「ライラック」が停泊する小樽港



係員の見送りを受けて、岸壁を離れる



天狗山を背に小樽の街が離れて行く



高島岬の日和山灯台が

・数羽のカモメがこの船を追いかけて飛んでいる。約 30 分ほど通り去る眺めを楽しんだ後、そろそろ風呂へでも行こうかと。案の定 風呂はガラガラで一人しか入っていなかった。窓は海側なので海しか見えないが、大きな展望風呂を貸し切り状態でゆっくり楽しんだ。

・乗客は自衛隊の他にはあまりいないようで、客室のほとんどがクローズになっているし、ロビーにも誰もいない。ガラとしたロビーで一人風呂上がりのビールで喉を潤し、早めの昼食に割子そばを食って良い気分部屋へ戻ったら、そのまま寝てしまった。目が覚めたら 3 時を過ぎていた。

ロビーでビールを飲みながら、本「北海道の山」をぺらぺらめくり、今年までの 5 年間を振り返りながら読み送り、ずいぶんといろいろな所へ行って沢山の山に登ったものだと、改めて我ながら感心した。石狩岳や幌尻岳はまだ登っていないが、もうそろそろ北海道の山旅も終わりだなと思った。

・「夕食の用意が出来ました」とレストランからのアナウンスがあり、時刻は 18 時。私も夕食を持ってロビーへ出かけたが、いつもならこの時間、夕食を摂る乗客でいっぱいロビーに、今日は私一人ではないか！ 早々に食事を終えて部屋へ引き返した。いま 19 時。とにかく船はやる事が無くて退屈だ。ただ寝るのみ。

● 7月12日(木) 小雨・曇 新潟から榛名へ <終章>

・昨夜は 19 時に寝たが、人間そう寝てばかりいられない。夜中の 12 時に目が覚めてからウトウト、我慢できなくなり、3 時過ぎに起床して、ロビーで暗い海を見ながら次第に白け来る朝を待った。4 時には明るくなってきたが、どうも天気は良くなさそうだ。上等船室には乗客がいたようで、下船時はまあまあ大勢の客が集まっていた。予定通り 5 時 45 分に新潟港に接岸し 6 時過ぎに無事小雨降る新潟に上陸した。



小雨降る新潟港に接岸する



・今日はこれから高崎駅で朋子を拾って榛名の義母の所へ行くことになっている。
・これで今年の北海道山紀行は終わった。前半の半月は東北の被災地を回り、後半の半月弱で北海道の山旅をしたという、多彩で忙しい旅だった。東北の被災地回りは短期間に欲張ってほぼ全都市を回ったため、「広く浅くで」上面だけ舐めてしまい、総花的に全体像は掴めたが深く突っ込んでみたいと云う思いが消化不良のように残った。後半の北海道は天候が悪かったので登れた山は少なかったが、念願のニペソツ山に登る事が出来たのは良かったし、ワングルの仲間と合流して大雪山に登ったという楽しい経験もできて、記憶に残る素晴らしい山旅ができた。

前にも書いたが、北海道の主な山は殆ど登ってしまったので、これで夏の北海道は終わりにしようと思う。来年からは北海道以外に場所を変えるか、あるいは北海道でも季節を変えて（秋とか）みようかとか、これからゆっくり考えて行こうと思う。

- ・今年も思い出多い素晴らしい山紀行を無事終えることができた。

完